

猛暑の夏をのりきりましょう！

猛暑の2013年夏を迎えています。みなさんはお元気ですか？真夏の家庭訪問、イベントにがんばっていることでしょうか。職場では節電とクールビズに励んでいるのではないのでしょうか。熱中症や夏バテになっていませんか？みなさんは若さでのりきり!?つもりかもしれませんが、夏季休暇でリフレッシュすることも忘れずに！

今回の‘ぴかほし’ニュースは、3月8日に開催された第5回と7月28日に開催された第6回 PHN 研究会の報告です。

長崎県公衆衛生研究会での発表

第5回 PHN 研究会は、3月8日に長崎県公衆衛生研究会の自由集会として開催されました。テーマは『保健師活動について“熱く”語る』。市町村、県保健所、産業の現場で働く若い保健師と、ベテランの保健師が参加してくれました。話題提供として発表してくれたのは、‘ぴかほし’のメンバーでもある松藤保健師と脇川保健師です。

松藤保健師は市町で働く2年目保健師として「長与町健康づくり推進員協議会の歩みと活動」について、脇川保健師は「壱岐保健所の難病対策～3年目保健師として学んだこと～」の発表を行いました。

2年目と3年目の保健師が自分の活動を振り返り、保健師としての課題を発表しました。先輩方も熱心に耳を傾けてくれました。先輩保健師が新人の頃は、一人のケースをじっくり支援したり、先輩に相談しながら事業運営や企画を学んでいましたが、現在は業務分担制が多く、企画や財政面の問題から新人保健師も主担当として悩みます。どうやって自主グループをひとり立ちできるよう支援し、いつ保健師が手を離せばいいのか？キーパーソンの捕まえ方、時代と社会の要請に対応できる事業の企画力…新人保健師には多くの期待が寄せられていることが分かりました。

長崎県公衆衛生研究会自由集会では、第4回 PHN 研究会で発表してくれたふたりが再登場してくれました。諸先輩の前での発表は緊張～



‘ぴかほし’の2人は、この発表の経験を経て、自身の課題と、それ以上に保健師としての成長を自覚することができたのではないのでしょうか。これからも大学は‘ぴかぴか保健師’の皆さんを見守っていきたいと思います。

東日本大震災における保健活動

第6回 PHN 研究会は、7月28日に保健学科で開催されました。保健師歴は3か月から3年めまでで、初参加の卒業生も多く、また、この会の噂を聞いて卒業生以外の保健師も初参加されました。日曜開催でしたので、ランチをはさみながら有意義な時間を過ごすことができました。

今回は、4月から広域看護学講座に新たに着任された西原三佳助教に「東日本大震災における保健活動」として岩手県陸前高田市での活動報告、そこから学ぶ災害時の保健師、公衆衛生活動についての講義をお願いしました。災害支援での経験を、詳細な活動報告にとどまらず、復興の時期別保健体制づくりや活動指針など、「パブリックヘルスの危機管理」としてまとめて下さいました。震災から保健師の強みとして感じたことは「人の生命と生活を支えるために、人と人、職種と職種、組織と組織をつないでいく保健師の役割が大事」とのメッセージです。

‘つなぐ’能力、マネジメント能力の大切さを再認識できました。



働きながら修士で学ぶ

今回は、保健師として働きながら現在大学院修士課程2年生として学ぶ濱田保健師にも発表してもらいました。

大学院へ進学しようと思ったきっかけ、入学試験について、修士1年生の時の授業のこと、「子育てと保健師の仕事・授業の課題」が重なった時のピンチの越え方など、まさに「経験者は語る」に相応しい具体的な内容でした。「入学当初は研究テーマもぼんやりとしか決まっていなかったけれど、今はやりたいと思う研究がいくつもある。他の職種の人からも研究してみないかと声をかけてもらえる」という言葉が印象的です。濱田さんは日頃の業務の中に研究テーマをみつけているのです。保健師にとって、業務につながる研究を行い、研究結果が業務を発展させるというのは、幸せなことだと思います。生き生きとした濱田さんの様子に、触発された参加者もいたようです。

・近況報告

★保健師3か月たちました…

保健師新人は電話での特定保健指導で相手に「監視されてるみたいだ」と言われて落ち込んだり、看護師時代とは違うデスクワークの多さと家庭訪問独り立ちへむけてがんばっています。今回は、ぴかほしの他のメンバーがアドバイスをくれていました。気持ちが分かるのは先輩の強みですね。

★地区担当制になればいいなあ

西原先生の講義や、災害支援の経験のある先輩の話を受けて、業務分担よりも地区担当がいいなと感じている参加者が何人かいました。母子保健など経験のない分野があることに不安を感じたり、もっと地域に密着して仕事をしてみたいと感じているようです。保健師活動は全国的に地区担当制へ戻ろうとする動きがあります。でも、そういうふうになるようになったのは、あなたたちが今の業務に自信が出てきた証拠でもあるのだと思いますよ。



前列中央の西原三佳助教は4月に着任された先生です。その左側は修士で学ぶ濱田保健師です。



★なぜ保健師になったんだろう？

今回初参加の12年目の保健師が、率直な気持ちを話してしてくださいました。経験を積み重ねても悩む気持ちがあります。濱田さんのように、学ぶことも何かの突破口になるのかもしれないね。

第7回長崎大学PHN研究会

日時 11月30日(土)頃を予定
14:00~17:00(予定)

場所 保健学科第6実習室(4階)

参加費 500円

懇親会&忘年会もやります!

11月上旬に案内状を送ります。
皆さんに会えるのを楽しみにしています。
顔をみせに来てくださいね!

広域看護学講座ホームページ

<http://www.am.nagasaki-u.ac.jp/kouiki-kango/index.html>



長崎大学 PHN 研究会 事務局

住所 〒852-8520 長崎県長崎市坂本1-7-1 長崎大学医学部保健学科(川崎涼子)

電話番号: (095) 819-7952

FAX: (095) 819-7952

電子メール アドレス: rkawasak@nagasaki-u.ac.jp